



「ドイツに学ぶことはまだ沢山あります」

横浜日独協会会長 早瀬 勇

会員の皆様、関係者の皆様。お健やかに新年を迎えられたことと存じます。本年も皆様およびご家族と、設立3年目を迎える横浜日独協会にとって稔り多い一年になりますよう力を合わせて参りましょう。

ホームページの新年のご挨拶にも書きましたが、日独交流の中で日本がドイツから学ぶべきことはまだ沢山あります。今回は「地方の声を国政に反映する連邦参議院」について書いてみたいと思います。

(1) ドイツの知事(州首相)は連邦参議院議員

橋下大阪市長は維新の党の共同代表ですが、今の兼職規定では国会に議席を持ってません。嘉田滋賀県知事は、未来の党の党首として「卒原発」を掲げ衆議院選挙に登場しましたが、県議会から県政か国政かの二者択一を迫られ、選挙の不首尾もあって国政を諦めざるを得ませんでした。知事や市長が自ら国会で地方の声を反映させる方法はないのでしょうか？ あります。ドイツでは知事(州の首相)や州の閣僚が連邦参議院議員として国政に参加出来るのです。

(2) 国政に地方の参加を保障するドイツの参議院

ドイツの国会は約600人の議員で成る連邦議会(Bundestag = 日本の衆議院と相似、直接選挙)と議員数僅か69名の連邦参議院(Bundesrat)から成りますが、参議院は16州ある地方政府の意思を連邦政府の政策に反映させる場です。議員は各州から派遣される州首相および州政府閣僚で、票決権は州の人口に応じて決まります。フランクフルトがあるヘッセン州は5票、ハンザ都市ハンブルクは3票といった具合です。権限は、基本法(憲法)の改正案や財政法案を含む州に関連する法案の審議と票決です。任期は無く、連邦からの議員歳費は当然ながら支給されません。

ちなみにドイツでは必要に応じて基本法(Grundgesetz = 憲法)が改正され、制定以来すでに60回くらい連邦議会による改正法案が連邦参議院の同意を得て可決・施行されています。このほうが国家としてノーマルでしょうね。



講演後のロート・フランクフルト市長(当時)に早瀬会長夫妻から記念の横浜スカーフを贈呈。昨年5月27日、日本新聞博物館にて。

(3) 日本式参議院は必要でしょうか？

日本の衆議院と参議院の違いは何でしょうか？ 不思議なことに日本国憲法も参議院の目的を明記していません。でも議員の任期が6年と長く、衆議院のような解散が無いので、長期的視野に立って「良識の府」「再考の府」として機能することが期待されています。先の選挙で再選された知人の衆議院議員は、「最初参議院に当選した時は、正直これで6年は安泰と思った」のですが、「衆議院の優位性から見て鞍替えした」そうです。

戦後の参議院には「緑風会」という政党があり、教養も経験も豊かな良識派の集まりでした。しかし今はスポーツや芸能で有名になったタレント候補を当選させて議席数を増やす党略の場になっています。そんな日本の参議院は本当に必要なのでしょうか？ 審議が二度手間になったり、あるいは衆参の“ねじれ状態”を作り出して、「決められない日本」の原因となりかねません。

それよりも改革の実績も意欲もある大阪市長や、優れた経営センスで市政に取り組む横浜市長が参議院議員を兼務するほうがよほど日本の為になるでしょう。ただ自治体の首長が参議院議員を兼ねるには、兼職規定の変更が必要ですし、参議院に議席を持つような県知事や大都市の市長は益々多忙になりますから、アメリカ式の「事務市長」を置いて日常のルーティンワークは任せることが必要になるでしょう。

ドイツの長所は謙虚に認め、日本の地域性に合わせて取り入れていくことが大切だと思います。

法人会員

株式会社文芸社 ウィンクレル株式会社 ポッシュ株式会社 フェリス女学院大学
モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合 株式会社テレビ神奈川

横浜日独協会の忘年会に参加して



カタリーナさんとタベアさん

はじめまして。(公財)日独協会の研修生のカタリーナです。2012年10月からスタートして2013年3月末まで半年間日独協会の事務所でインターンシップをします。

2012年12月8日(土)、一緒に日独協会働いているタベアさんと横浜日独協会の忘年会に参加しました。

横浜日独協会に行くのは初めてでしたので、少し緊張しながら横浜に向かいました。

今回の忘年会は横浜の素敵なレストラン“Green's Harbor”で行われました。



会員の皆さんがとても歓迎して下さってる気持ちが伝わってきて、とても安心して、最初から沢山の面白い話と交流ができました。

最初に会長の早瀬さんの挨拶がありました。そのお話しによると、横浜日独協会は設立してまだ二年しかたっていないのに、もう140人以上の会員がいらっしゃるそうで勢いがあると感じました。その後、早瀬会長が、ドイツについての面白いテレビ番組に、出演された時のビデオを見せてもらいました。

ビデオが終わった後、ドイツでも活躍しているバイオリニスト武田寛彰さんが現在取り組んでいるという曲をバイオリンで弾いてくれました。とても綺麗な演奏で感激しました。

そして、副会長の挨拶で皆で乾杯し、いよいよ食事の時間になりました。皆さんもビュッフェをととても楽しみにされていたみたいで(もちろんタベアと私も)美味しそうに準備された立派なビュッフェを食べていました。食べ物も飲み物もたっぷりありました。とても大きなビュッフェから好みの食べ物を選んだり、会員さんと喋りながら美味しいビールを頂きました。私はやっぱりお肉が美味しカタ！です。

ドイツの美味しいワインが沢山あったことも、とても幸せでした！その中に、私がドイツで住んでいる街「トリア」のモーゼルワインもあって、久しぶりにモーゼルワインを飲むことができ感動しました。モーゼルのワインはやっぱり最高だと再確認しました。

日本のパーティーではよくお土産やプレゼントの抽選が行われますが、横浜日独協会は普通の福引形式ではなく、お客さん皆でじゃんけんをしました。

最後まで残った人が賞品をもらえるということで、私もできるだけ頑張りました。もちろん、賞品が欲しいということだけでなく、沢山のひととじゃんけんして、色々な人と触れ合えることが出来ると思ったからです。

結局8位まで進んで、そこで負けてしまいましたが、とても素敵な賞品をもらいました！

私の大好きなシュトレン(ドイツのクリスマスケーキ)！しかもとても大きい！本当に嬉しかったです。そのシュトレンは、クリスマスに友達と一緒に美味しく頂きました。ごちそうさまでした！

パーティーでは、横浜日独協会の会員の方たちが、歌や楽器パフォーマンスを披露していて、様々な才能を持つ会員の方がいらっしゃるんだなと思いました。素晴らしいですね。

そしてもちろん、皆でドイツのクリスマスソングを歌いました。ドイツ語でも日本語でも歌うのが初めてで興味深かったです！(後日談ですが、日独協会のクリスマスパーティーでも、ドイツ語と日本語で歌ったんですが、私はその時病気で倒れてました。残念でした！)周りの皆さん、合唱でも歌っている人が多く、すごく上手でしたし、久しぶりにドイツのクリスマスソングを歌って、ドイツを思い出して懐かしくなりました。

私は横浜日独協会の忘年会に参加できてとても嬉しかったです。これからも横浜日独協会と仲良くできたらと思います。

楽しい時間をありがとうございました！そして今後どうぞ、宜しくお願いいたします！

2013年1月



公財)日独協会研修生 グリュン・カタリーナ



1月例会

講演会「資産運用のABC」に出席して

会員 萩原 一夫



1月20日、横浜ワールドポーターズにおいて、一般社団法人日本投資顧問業協会元副会長、UBSグローバルアセットマネジメント 前代表取締役副社長の向井稔氏の「資産運用のABC」のご講演を拝聴致しました。資産運用に関する明解で体系だったお話を伺い、退職後の資産運用について大変勉強になりました事、御礼申し上げます。

先ず、資産運用業は金融業とは異なる全く新しい分野であることを理解し、

- ①資産運用の本質では、儲け話の「異常」に気づくこと、常識の範囲を超えるものなど存在しないことが一番大事であること、具体的には「年率10%を超えるような儲け話に飛び付くな」という教訓に納得しました（例：昨年のAIJ投資顧問の事件など）。
- ②投資リスクでは、市場リスク（価格変動リスク）信用リスクがあるが、とりわけ信用リスクではゼロなることもありうるるところからより注意が必要であることが強調されました。格付けについても、格付会社への規制の議論あることも紹介された。リスクフリー商品として以前は円建の国債が該当したが、現在はむしろ預金保険でカバーされているペイオフ限度の10百万円までの銀行預金がそれに当たると指摘。又、最近では金融工学を用いた複雑な金融商品も登場しているが、その包含するリスクは金融のブラックボックスであるところから、より注意を要することが指摘された。
- ③投資リターンでは、分散投資の有効性が長期的には実証されているが、国際分散投資については、最近グローバルバリエーションの影響で相互に連鎖している事も説明があった。富裕層の資金運用では、殆ど長期運用が行われているとのこと。
- ④主な投資対象では、従来の預貯金・国債・社債での運用の他、
 - a. 外貨預金・外貨建てMMF、外貨建て債券・外国REIT（為替リスクあり）
 - b. 日本株・外国株・新興国株式・ヘッジファンド等代替投資更に実物資産を背景とした運用では
 - c. 不動産投信（REIT）・貴金属（金投資）がある。とりわけ国内のオフィスビルや倉庫、介護施設なども運用対象としたREITについて説明あり、タックスメリットある国内REITは最近4.5%~5.0%（年率）の配当率となっている事の説明があった。
- ⑤日経による「老後資金のアンケート」
- ⑥老後資金として必要な金額
- ⑦必要な老後資金の獲得
- ⑧最適ポートフォリオの基本形としては、65歳の場合、
 - a. 日常の生活費や決まった支出用（税金・保険料等）→約2割の流動資産



講師の向井稔氏

- b. 5-10年の期間を考え中長期的に運用益を安定確保 →約6割の安定資産
 - c. 短期的（1-2年）に高収益の運用をめざすリスク・マネー →約2割の運用資産
- ⑨3つの財布を作ってみよう
- a. 流動性を最優先 →郵貯を含む主要銀行での普通預金（運用収益でなく利便性の追求）
 - b. 資産の安定・安心運用 →高格付けの債券投資や銀行の定期預金
 - c. ある程度リスクを取り、高収益の運用目指す、但し、信用リスクはとらないことが原則 →高配当が期待できる株式、REIT、外貨資産への分散投資
- ⑩「脳活性化」のための資産運用として下記を推奨
- a. 毎日の市場（株式、為替、商品）の動きを自分なりに追ってみる。
 - b. 社会現象、自然現象、国際情勢など様々な出来事をFollowしてみる。
 - c. 少額でも、実際に市場に参加してみる（例：為替）
 - d. 人任せにしない、基本的には「自分の資産は自分で守る」
 - e. 営業マン（ノルマで話をしている事多い）の言葉だけを信じない。
- 特に上記d.とe.を強調された。
- ⑪市場の変動要因とは？
- 市場心理、マクロ経済（GNPと国債収支動向）、政府・日銀による金融政策、国際情勢の変化、自然現象の変化、政権交代等国内政治情勢の変化、欧米の経済・金融政策や財政状況、中国の景気動向の8項目にて整理された。
- ⑫リスク・シナリオを考える
- a. 我が国政治経済・金融市場環境の主な課題としては、デフレ経済の継続・景気低迷（失われた20年？）、財政赤字・社会保障制度への不信感、国富の更なる喪失（22年目）などが示され、
 - b. 最悪のシナリオ・急激な変化への懸念としては、金融政策の信頼失墜・財政危機顕在化・経常収支の悪化・社会保障制度の破綻はありうるシナリオとし、その場合急速な金利上昇（国債の暴落）、急速な円安→資源等、輸入物価の高騰→国内産業の競争力低下、株価の暴落、急激なインフレ進行。この結果、生活水準の劣化が懸念される。
- 萩原の私見として、この最悪のシナリオを充分念頭におき、「脳活性化」というややのんびりした対応ではなく、今後は「資産の防衛」を真剣に考えるべきと思いました。
- ⑬投資環境・今後の見通しでは
- a. 自公連立安定政権への強い期待感（プロビジネス＝企業をより重視）
 - b. 市場心理の全般的な好転→外人投資家からの投資資金の継続的な流入
 - c. 期待先行で市場心理は急速に好転しつつあるが、今

後はどうなるのか

市場での注目ポイントとは

*為替市場：ドル・円で90-100円台が定着するのか？

円安方向で安定するのではないかと考えるが、海外からの「円安批判」ありうる。

*株式市場：リーマンショック以前の13,000円を目指すのか？

*金利市場：物価上昇率2%のソフト・インフレが示現するのか？金利は上昇傾向となることから、固定金利での運用は避ける必要あり。

*不動産市場：都心中心部の空室率に底打ち感が出てくるのか？この結果、REITは上昇するであろう。

投資環境・今後の見通しとして、特に年内の見通しとしては、明るさが感じられるが、ソフト・インフレに留まらず、上記最悪のシナリオも考え、年金主体生活者として防衛策を質問させて頂いたが、インフレ対応策としては、借入を行うこと（高齢者として新たな借入は難しいが）、REIT運用などインフレに対応できる資産運用を行う事などの示唆を頂いた。

更に、学生など若い人へのアドバイスとして、就職などでもグローバル競争の下、コミュニケーション能力を高めること（英語力も含め）、プレゼンテーションスキルも必要であることなど、お教え頂きましたこと、感謝致します。

行事予定

2月例会

講演：「ハンス・ホッター：人と芸術」

講師：森 文彦氏 会員

2003年逝去のドイツの名歌手(バスバリトン)ハンス・ホッター氏に師事した体験の中からの貴重なお話。なお森氏は歯科医師の傍ら歌手としてステージで演奏しておられます。

日時：2月17日(日) 午後2:30~5:00

会場：吉野町市民プラザ会議室(横浜市営地下鉄吉野町駅徒歩3分)

会費：1,000円 懇親会：500円



3月例会

映画会：「善き人のためのソナタ」

(Das Leben der Anderen)

2005年ドイツ映画。旧東独のシュタージのエージェントを主人公にしたドラマ、当時の監視社会の実情が克明に描かれている。

日時：3月17日(日) 午後2:30~5:00

会場：吉野町市民プラザ会議室(横浜市営地下鉄吉野町駅徒歩3分)

会費：500円



会報「Der Hafen (港)」の表題のデザイン募集

今回の13号からカラーとなり、また設立3年目を迎えるにあたり会員の皆様よりデザイを募集します。アイデアのみでも結構です。事務局までお寄せ下さい。今回は、会報編集係りがカラー用にとりあえず作成しましたが、会のオリジナルを作りたいと思いますので、是非ご一考ください。

Der Hafen (港)



二つのプロジェクトへの参加をお待ちしています。

「横浜市中心企業支援プロジェクト」並びに「ハンブルグ独日協会との協力協定プロジェクト」が発足しました。それぞれのリーダーは前者が坂井啓治氏、後者は中戸弘之氏にお引き受け頂き、すでに数名の会員の方々が参加されておりますが、より多くの会員の参加をお願いしたいと思っております。関心をお持ちの方は是非事務局までご連絡下さい。

横浜日独協会会報 発行 2013.2.1 (第13号)

事務局：〒223-0058 横浜市港北区新吉田東 2-2-1-913

能登 崇 方

Tel & Fax: 045-546-0801, e-Mail: tak_noto@yahoo.co.jp

会報編集責任者 大久保明

e-Mail a-okubo1926@ttmy.ne.jp

横浜日独協会ホームページ

URL:<http://jdgy.sub.jp/index.html>

お知らせ

湘南日独協会は5月21日羽田発31日羽田着の予定で東部ドイツ旅行を予定しています。ご関心をお持ちの方は東日本観光(株)担当:阿部までご連絡下さい。

主な訪問予定先：ワイマール、ドレスデン、マイセン、ベルリン、ザスニッツ、リュウベック、ハンブルグ。各地の独日協会との交流会も計画されています。

編集後記

今回から会報がカラーになるということで、今迄、気にしていなかった色の配分も考えつつレイアウトしてみました。皆様のご意見お待ちしております。

山口

念願のカラー化が実現致しました。これも会員の多くの皆様のご協力の賜物と関係者一同喜んでおります。ホームページの拡充と併せて横浜日独協会の広報活動がさらに前進です。情報提供、会員間のコミュニケーションの手段は日々新しく、会員の皆様お持ちの知恵と技術を是非ご提供頂きたくお願い致します。事務局または編集者へご連絡下さい。 大久保